

HUGE

hi-end style magazine.

【ヒュージ】
No.051
DECEMBER 2008
12
KODANSHA
定価
700 YEN

平成20年12月1日発行 年12回 1日発行
創刊号12号

真冬直前の物欲カタログ



<http://t-nine.co.jp>
T-NiNE
advertising & creative
株式会社ティーン
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前3-25-12
パレフィックスアエア東横店
TEL:03-5772-0448 FAX:03-5772-0449

HOTSTUFF2008

“新しい一歩を踏み出す必要があったんだ”



「これまで僕は陶芸家であり、プロダクトを作っていたらよかった。意味とかコンセプトを考える必要はなかったんだ。自分が美しいと思ったものを、ただ作ってればよかったんだからね。でも、そうしていながらも、果たしてこのままでいいのか？ 新しい一歩を踏み出す必要はないのか？ という葛藤が、常に頭の中にはあった。それで僕は、花瓶の口をだんだん小さくしていったんだ。よりアブストラクトになるようにね」

昨年、大規模な山火事に見舞われたLAのグリフィスパーク。そこで拾った炭化した木片を、陶器を飾るフレームにアレンジしたのだという。一つひとつの陶器は、手のひらが余るほど小ぶりだ。確かに花瓶などとしての“実用性”は見当たらない。しかし、唯一無二の色彩と千変万化の表情をもつ陶器を、その炭のフレームの中にくっつか組み合わせた作品は、小宇宙そのもの。アダム・シルヴァーマンの新たな試みは、陶器の底知れぬ可能性を照らし出していた。

「実際にゴミ置き場に落ちていたものを拾って、それをベースに作ったものもあるし、店で買ったものを使った作品もある。そういう、ともすれば捨てられていたかもしれないものからも、新しい作品が生まれるんだ。これまで一番美しいものがね。それって、とてもエキサイティングなことだよ。とはいうまでも、僕はなんだって売れるよ(笑)。そうしなきゃ生活できないもの、確かに別れるのがつらい作品もあるし、手放したくないのも事実。だけど、ほとんどの場合、僕は作品を売ることによって、僕の生活は何ひとつ変わっていないんだ」

Adam Silverman Answer “Abstraction”

Photo: Kento Mori | Interview & Text: Yasuyuki Takase, Aya Tachiro-EdKw

アダム・シルヴァーマン 1963年、アメリカ・ニューヨーク生まれ、陶芸家。過去には、建築家として店舗設計を手掛けた。 (X-LARGE) の創設に関わった経歴を持つ。2003年、LAに工房を設立。今回は、TKG代官山で開催された個展“Nature Morte”のために来日。